

第 1 0 8 1 回教育委員会会議録

1 日 時 平成 3 0 年 6 月 1 1 日（火） 午後 3 時 0 0 分～午後 4 時 3 0 分

2 場 所 教育委員会室

3 出席者 東村教育長 吉井委員 西野委員 八田委員 南部委員 原委員
松田教育振興監 佐々木学校教育幹 吉野企画幹（競技力向上）
片柳教育政策課長 巣守学校振興課長 清川高校教育課長
中森課長（高校学力向上） 浦井義務教育課長 山本課長（小中学力向上）
清水生涯学習・文化財課長 坂本スポーツ保健課長
西川競技力向上対策課長 荻原文化振興課長

4 議 題

日程第 1 第 8 号議案 平成 3 0 年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項
（定時制の課程および通信制の課程）の制定について

日程第 2 第 9 号議案 平成 3 1 年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての
基準、選定資料および採択目録の決定について

日程第 3 第 1 0 号議案 福井県立歴史博物館運営協議会委員の任命について

5 審議事項

（１）開会宣告 午後 3 時 0 0 分

（２）会議録署名人の指名 西野委員 八田委員

（３）議事要録

教育長 本日の日程第 2 第 9 号議案から日程第 3 第 1 0 号議案、協議報告事項の 3
から 4 については、事務執行上、公開が適当でないことから、非公開とする旨発
議

———当該議案を非公開と決する———

教育長 日程第 1、第 8 号議案を議題

高校教育課長 資料に基づき説明

八田委員 毎年、どれぐらいが受験しているのか。

高校教育課長 昨年は、定時制 7 名、通信制 1 名が受験をしており、全員合格している。

南部委員 外国の日本語学校や外国の学校に在籍していると入学が 10 月になり通常と半年ずれてくるが、高校での単位の修得はどのようなになるのか。

高校教育課長 定時制、通信制の後期編入に入った場合、2 学期制単位制ということで卒業に必要な単位を修得した段階で卒業できることになる。単位修得までに最短でも 3 年間は必要になる。

南部委員 そういう単位の取り方になると、通常の 3 月ではなく 9 月に卒業という生徒も出てくるのか。

高校教育課長 そうである。

教育長 2 年半では卒業できないのか。

高校教育課長 必ず 3 年は必要になってくるので、3 年後の前期が終わった時点で卒業ということになる。最近は、後期からでも入れる大学が増えてきているので、そこを目指している生徒もいれば、半年間待つ生徒もいる。

西野委員 海外の学校から実際にこの制度で入学した生徒はいるのか。

高校教育課長 一昨年、昨年で海外から入学した生徒はいない。中途退学した生徒がほとんどである。

吉井委員 他県の全日制の公立高校に通っていた生徒が、転勤等で福井県に入ってきた場合、福井県の全日制の公立高校に入ることはできるのか。

高校教育課長 転勤の時期が年度途中の場合は、転入という制度に則って学校を動くことになる。年度末の場合は、高校 1 年生の年度末ならば 2 年生に編入という形になる。転勤の場合、父親だけ先に転居をして、家族は 3 月の入試の時期まで待つことが多い。

吉井委員 転入、編入をする場合、学校間で学力格差がある場合はどうなるのか。

高校教育課長 転入編入とも受け入れる側は、学力検査に相当する試験を行い、授業など入学後学校生活が円滑に行えるかどうか判断している。

教育長 第 8 号議案について、原案に対する有無を確認

———原案どおり可決———

◎協議・報告事項

(1) 教員採用選考試験の出願状況について

西野委員 募集人数は、科目によって昨年とあまり変わりはないのか。

学校振興課長 昨年度の教諭の募集人数が合計で240名であったが、その中で小学校が130名であった。他の教科については大きな変動はない。ただし、今年度は高校の水産と理療の試験を実施する。養護教諭について昨年度は17名、栄養教諭は7名の募集を行った。

原委員 今回の募集の中で、県外からの受験者は何人いるのか。

学校振興課長 出身高校別でいうと、教諭で県内出身者が81.2%、県外出身者が18.8%となっている。

原委員 県外出身者の18.8%のほとんどは、福井大学や県内の大学出身者なのか。

学校振興課長 県内の高校卒業後、県外の大学に進学している人もいるので、一概には言えない。

南部委員 志願者総数が昨年より102名減少していることについて、民間企業の求人が活発であることや教員の厳しい勤務実態に関する報道などが影響しているといった分析は行われているのか。また、教員の志願者減少に対する対策などは考えているのか。

学校振興課長 確かに教員の勤務実態の厳しさなどに関する報道もあるが、教育委員会としては教員の業務改善に取り組み、少しでも働きやすい職場、労働環境を作っていくことが必要だと考えている。一方で教員の魅力ややりがいも志願者に広めていくことも大切だと考えている。

教育長 昨年は倍率が3.96倍で4倍を下回ったが、今年度は4.34倍になった。ただし、4倍を上回ったのは採用人数が減ったからであり、出願数は減っているのだからたいへん厳しい状態である。民間企業の状態が良いこともあり、大都市はもちろん全国的に同じような状態が見られる。

西野委員 他県の教職経験者であらためて福井県で志願している人は、どれぐらいいるのか。

学校振興課長 31名の志願があった。昨年は37名だったので、6名減である。

原委員 出願の内訳で極端に減ったものや増えたものはあるのか。

学校振興課長 昨年より出願者数が極端に減ったものは、小学校で22名減った。

教育長 中高国語の倍率が低く、昨年も同じような傾向が見られた。中高保健体育の倍率が高いこともよく見られる傾向である。

南部委員 募集人員と出願数が同じ倍率1倍のところは、どのように審査するのか。

学校振興課長 筆記試験、面接等で審査して、水準に達していれば採用ということになる。
水準に達していなければ、今年度は採用を見送る。

(2) 高校入学者選抜における英検加点について

教育長 先日のふくいの教育振興推進会議において、高校入試における英検加点について議論をいただいた。現状維持でいいのではないかという意見から、3級のみで十分という意見まで、様々な意見をいただいたところである。

その中でも、加点幅を5点とし、評価する級を高校によって選択するという案に対して、肯定的な意見が多かったと思うが、委員の皆さまはどのように思われるか。

吉井委員 ふくいの教育振興推進会議において、委員の多くは積極的に取り入れた方がよいという意見が多く、生徒のモチベーションを上げるという点でも肯定的な意見が多かったように思う。案1か案2の話だと思うが、案2だと学校によって評価の級が違うので、特に福井市や越前市などで受験生が志望校を迷ったときに判断が難しくなると思われる。案1の2級の加点を廃止して、全部の高校を対象に準2級に10点、3級に5点という加点の方が良い。

ふくいの教育振興推進会議では、準2級も中学校の英語の授業をしっかり受けていれば十分合格可能という内容も出ていたので、モチベーションを上げるためにも案1が良いと思われる。

八田委員 基本的に生徒たちのこれから将来的に伸び行く力を支えることを第一に考えていきたい。好奇心・向上心を持って様々なことに取り組んでいく生徒たちのインセンティブを高めていくことは本当に大事なことであり、生徒たちの伸びゆく力についてしっかり教育委員会が考えていくことが大切である。

全国的に初めての試みでいろいろ試行錯誤しながら進めていくべきだと思う。基本的には案1か案2のどちらかだと思っているが、英会話についてはできる人はどんどん進めていけると思われるので、伸びる力をしっかり見ていくためには案1が良いと思う。

原委員 英語の高校入試について、英語のスピーキング力を入試の中でいかに評価していくのかという点からこの制度が始まったと聞いている。英検の準2級、3級を中学校のカリキュラムの中で身につけられるものとして評価の対象としていくことは、スピーキングを測るということでもとても意味のあることだと思う。

案1か案2かについて、制度の継続性と生徒一人ひとりの英語の力をしっかり評価できるという点から、高校ごとというよりも案1の準2級10点3級5点という所で制度をしっかり作って、2級について今回は見送るという形が制度としては良いと思われる。

制度の分かりやすさとやる気のある生徒がさらに上を目指せるという点で案1の方が良いと思うが、現場の先生の指導の仕方で難しい点があるとか英検の補助を何回分も出せないなどという点から案2で進まないといけないという場合には、現在中学校3年生のためにもできるだけ早くこの制度を固め、高校ごとの加点対象の級を早く伝えられるのなら案2でも良い。

南部委員

案1を推薦したい。様々な議論の中で折衷案ということで案2が上がってきているが、若干消極的であること、よりスピーキング能力を高めたいという生徒にとってはこの程度やっておけば良いのかという感じになってしまう、どの高校が何級から加点するのかをまだ告知していない、などという観点から考えて案1を推したい。

来年受験をする生徒たちは、入試に向けてどう取り組めばよいのか不安に思っているはずである。英検を受験する機会も限られてくるので、速やかに告知を行い、しっかり伝えてほしい。

入試前の2月に行われる英検の結果が出願に間に合わず事務的に無理ということであるが、可能であれば2月の英検の結果も入試で評価できるようにしてあげてほしい。

西野委員

ふくいの教育振興推進会議では、福井の子どもたちの将来像が話し合われていたが、その中で、最終的に世界に出て行っても胸を張って英語を使ったコミュニケーションができる子どもを増やしていきたいという意見が出ていた。

英検を通して、書く、読む、聞くという基礎から話すというステップを一律に3級を目指して勉強をすることで、英語の基礎を全体的に身につけることができることは、とても意味のあることだと思う。その先どこまでを目指すかは子どもたちに任せれば良いと思うが、今までたどり着けなかった話すところまで取り組もうと思うと、継続して進めていくなら戸惑いもあると思うが今回のような思い切った政策も必要だと感じている。

案2になると、入試が差し迫ってくる中で学校ごとの加点対象となる級に関する情報を収集していくことは時間がかかることでもあり、不安をあおることにもなる。また、トラブルも起こってくる可能性も高い。結果的に案2に移行した方が良いとなっても、今回は分かりやすい案1の方が良いと思われる。

教育長

この件については、6月議会での議論を踏まえ、決定していきたいと考えているので、またご議論させていただきたい。

教育長

日程第2、第9号議案を議題

義務教育課長

資料に基づき説明

教育長

第9号議案について、原案に対する有無を確認

————原案どおり可決————

教育長

日程第3、第10号議案を議題

文化振興課長

資料に基づき説明

教育長

第10号議案について、原案に対する有無を確認

————原案どおり可決————

◎協議・報告事項

(3) 文部科学大臣表彰の推薦について

(4) 高校入試における推薦制度の見直しについて

教育長 本日の会議の終了を宣言

6 閉会宣言 午後4時30分